

令和3年度 事業報告

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

事業の状況

社会の繁栄の基礎は、科学技術の進歩と産業経済の発展にあるとの考えに基づき、わが国の優れた独創的な研究開発を推進し、科学技術の発展と国民生活の向上に貢献したいという当財団設立提唱者市村氏の想いを実現するため、令和3年度も関係各方面の方々のご支援とご協力により以下の事業活動を積極的に展開し所期の成果を収めました。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大により令和2年度に引き続き、各種事業に影響が出ました。

1. 科学技術の研究開発助成

(1) 新技術開発助成

科学技術に関する独創的な技術を実用化するために技術開発の努力をしている中小企業へ助成する事業です。令和3年度は17件（総額226,140千円）の助成を決定し、8月17日及び令和4年2月10日にオンライン形式で贈呈式を行い、助成金を贈呈しました。なお平成30年度の第2次より募集を開始した環境分野については、当該年度の第1次において1件の助成案件がありました。

(2) 地球環境研究助成

人類の継続的発展のためには地球環境の保全、中でも地球温暖化対策が喫緊の課題となっています。このような状況に鑑み、重要課題解決のための研究テーマに対して助成を行う事業です。審査委員会の推薦に基づき4件（総額18,875千円）の助成を決定し、令和4年2月14日にオンライン形式で贈呈式を行い助成金を贈呈しました。

2. 新技術顕彰(市村産業賞、学術賞、地球環境賞の贈呈)

(1) 市村賞の贈呈

第54回の市村賞は、産業賞（功績賞2件、貢献賞4件）、学術賞（功績賞2件、貢献賞5件）、地球環境産業賞（貢献賞2件）、地球環境学術賞（貢献賞1件）合わせて16件（賞金総額56,000千円）の受賞が決定しました。

贈呈式は令和4年4月15日に、帝国ホテル東京「孔雀の間」およびオンライン視聴にて行い、新型コロナ感染防止を講じたうえで表彰状を贈呈しました。

(2) 国際技術交流

市村学術賞、並びに市村地球環境学術賞受賞者が国際会議などの国際研究集会に出席する場合の渡航旅費を助成する参加助成、及び国際研究集会の開催に対する助成です。開催助成2件、参加助成はありませんでした。

(3) 市村賞受賞記念フォーラム

市村賞受賞者や市村賞にゆかりのある第一線の研究者・技術者に最先端の科学技術について講演いただくことで、当財団の活動目的である科学技術の振興を図るとともに地域産業振興への貢献を目的に、市村賞受賞記念フォーラムを開催しました。

今年度は7月16日に名古屋マリオットアソシアホテルにて初めてのハイブリッド形式で開催しました。昨年度は中止だったため、第52回と第53回の産業賞、学術賞、地球環境賞から計5件の講演に加え、基調講演として、早稲田大学 尾形 哲也教授より「深層学習によるロボット知能の革新」と題してお話を頂きました。会場の参加者、及びWeb視聴の方が熱心に聴講され、活発な質疑等が行われました。会場では、フォーラムと併せて財団の各事業の紹介、並びに新技術開発助成で完了認定を受けた企業の開発成果の展示も実施しました。なお、講演後の技術交流会は中止となりました。

3. 少年少女創造性育成

(1) 第52回市村アイデア賞

関係者の協力を得ながら、新型コロナウイルス感染拡大による自粛要請の中、可能な限り各地に出向いて募集活動を行いました。その結果、7月1日から9月13日までの募集期間に、32,837件の応募があり、再び3万件を超える応募数となりました。

審査委員会の推薦に基づき、個人賞として文部科学大臣賞1件、市村アイデア優秀賞1件、審査委員長特別賞1件、朝日小学生新聞賞1件、朝日中高生新聞賞1件、科学技術館館長賞1件、市村アイデア記念賞5件、市村アイデア奨励賞25件、佳作50件、努力賞92件を、団体賞として最優秀団体賞1件、優秀団体賞2件、奨励団体賞3件、努力団体賞9件を決定しました。

11月19日に北の丸の「科学技術館」に於いて表彰式を実施し、賞状、トロフィー、奨学金を贈呈するとともに、佳作に対し楯、努力賞に対し賞状を贈呈しました。なお、個人賞の奨学金と団体賞の賞金の合計は4,600千円でした。

(2) キッズ・フロンティア・ワークショップ

小・中学生を対象に科学技術に関する講話や実験・製作などをおして、科学の原理を楽しみながら理解し、科学技術への興味、意欲を高めることをねらいに（公財）日本科学技術振興財団との共催、文部科学省、朝日新聞社、朝日学生新

聞社の後援などで「かがく・夢・あそび」をスローガンにワークショップを実施しました。

今年度は、半日コースを11月19日に市村アイデア賞表彰式後に北の丸の「科学技術館」で実施し、受賞者の小・中学生を含む保護者・引率の先生など合わせて約150名が参加しました。冬休み1日コースは12月11日、12日に札幌市の「北海道経済センター」において札幌市教育委員会の後援、(株)リコー、リコージャパン(株)北海道支社の特別協賛のもと、小・中学生55名、保護者27名が参加し実施しました。また、春休み1日コースは令和4年3月12日、13日に北の丸の「科学技術館」で実施予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止となりました。

4. 植物研究助成

第30回の植物研究助成は、5月12日に贈呈式をオンライン形式で開催し、研究者23名に総額33,000千円の助成が決定しました。贈呈書等は後日送付しました。

なお、令和3年度中に募集、審査を行った、令和4年度の第31回植物助成では、23件、総額32,990千円の助成が決定しました。

5. 植物研究園の利活用

春の一般公開を科学技術週間に合わせて4月12日～18日の7日間行い、期間中の来場者は413名でした。

紅葉に合わせて秋の一般公開を11月22日～28日の7日間行い、期間中の来場者は240名でした。